

図書館だより

目次

アレクサンドレイア図書館の終焉	——新海 邦治	1
「今、学生にすすめる本」特集（その18）		
——中村 博志	出渕 敬子	2
田中 雅文	岡本 安晴	
青木生子・岩淵宏子編	——倉田（岩淵）宏子	3
『日本女子大学に学んだ文学者たち』の紹介		
展示「ニュージーランドの絵本と児童文学」	——百々佑利子	4
図書館ライフを楽しんで	——矢島 由起	6
図書館の快適空間	——与曾井量子	
図書館コード —図書館でのやくそくごと	——鈴木 学	7



アレクサンドレイア図書館の終焉

新海 邦治

ローマ皇帝ネロに仕えたストア派の哲学者セネカは『心の平静について』の一節で、「4万巻の書物がかつてアレクサンドリアで焼失した」と述べている。時代は遡って紀元前48年、ポンペイウスを追ってエジプトに入ったカエサルは、図らずも王家の内紛に関わることになり、クレオパトラと対立する少年王の軍勢と市内で激戦を余儀無くされた。彼の著した『内乱記』によれば、戦術上の必要からこの時彼は、海上にあった艦船のみならず造船所の船まで焼き払った。この火災について彼はそれ以上を語らないが、プルタルコスの「カエサル伝」では、この火が造船所から拡がってプトレマイオス王朝の誇る大図書館を焼失させたとされている。セネカの言葉はこの火災を指しているわけである。だがそれにしても4万巻という数に疑問が残る。一説には70万巻とも言われる膨大な蔵書をこの図書館は擁していた筈だからである。プルタルコスの後、3世紀初め頃にギリシア語でローマ史を著したディオ・カッシウスは火災が拡がって造船所や穀物および書物の倉庫なども焼失したことを伝えているが、図書館には言及していない。王家では入手した未整理の書物を一時港の倉庫に保管していたと言われるから、焼失したのは保管中の4万巻だった可能性もある。

ところでカエサルが去って恐らく20年ほど後にアレクサンドレイアを訪れた地理学者ストラボンは、パロス灯台を始め王宮や劇場など、市内の重要な施設を『地誌』に細かく紹介している。学術研究センター・ムーセイオンも、王家に替わってアウグストゥス帝が保護と支援を続けていたようであり、このセンターがなお充分に機能していたことを窺わせる。当時これらの施設が健在だったとすれば、火災はかなり限定的だったと考えられよう。ところが『地誌』には大図書館への言及がない。やはり焼失していたということなのだろうか。図書館とムーセイオンの位置関係も含めて事の真相はすでに知る由もない。

272年、パルミラの女王ゼノビアはローマからの独立を図ってアレクサンドレイアを占領した。これに対してローマ皇帝アウレリアヌスがこの市を攻撃したため、ムーセイオンを含む王宮地区は壊滅した。大図書館が先の火災を免れていたとしても、この戦火を逃れることはできなかったであろう。この後、大図書館の代替機能を果たしたのは、王宮地区から遠いセラピス神殿内の図書館だった。だが391年のテオドシウス帝による異教禁止令をうけて神殿は破壊され、図書館も消滅する。異教の学者たちは追放されて、ギリシア学術研究の一大中心地であったアレクサンドレイアは、その歴史的役割を終えるのである。

（図書館長・文化学科教授）

「今、学生にすすめる本」特集（その18）

■中 村 博 志（児童学科教授）

松居 和著 『親心の喪失』 エイデル研究所 2004年

＜深夜のメッセージ＞ こんな国があるのです。その国の大都市では、真夜中を過ぎると、奇妙なコマーシャルがテレビの画面から流れてきます。そのコマーシャルは不特定多数の、誘拐をしてしまった大人たち、親たち、そして誘拐された子どもたちに呼び掛けるメッセージなのです。「この電話番号に連絡して下さい。警察には通報しません。私たちに相談して下さい。」。初めてこのコマーシャルが飛び込んできたとき、私は、ああ来るところまで来たんだな、と思いました。今から一年半くらい前のことでしょうか。それから、毎晩のようにこのコマーシャルは流れてくるようになりました。この本はこの様なでしで始まる。松居氏はアメリカで20数年生活をして、アメリカの問題を肌で感じ、日本の今後のあり方がアメリカ化していくことに警鐘を鳴らす。彼は、アメリカ社会における虐待の根っこには、子供を捨ててしまった親の存在があり、家庭崩壊の恐ろしさが社会の崩壊を来たらしめることを警告する。

■出 淵 敬 子（英文学科教授）

井上ひさしほか著 『憲法九条、いまこそ旬』（岩波ブックレットNo.639） 岩波書店 2004年

いま憲法改正は是非かという問題が緊急課題として方々で真剣に論じられているが、奥の深い問題であるから、簡単に結論を出せないと思っている人も多いだろう。本書はわずか61ページの小冊子ではあるが、戦争を知らない若い人びとが憲法改正の大きな問題点である九条について考えてみるためには、絶好の手がかりがびっしりつまっている本である。

九人の筆者たちは、本書の源となった「九条の会」(昨年七月発足)における講演の中で、憲法九条を守り続けることが平和を維持することにいかに密接に結びついているかを誠実に訴えている。それぞれ異なる発想法と表現で、言論の大家たちが一つの問題を論じているのを読むだけでも興味深く、心に残る言葉に出会うこともしばしばである。たとえば、憲法九条は「みんなの思いがこもったものであり」、戦争の果てに「もうこれをやめようじゃないか」という全世界の気持ちがある」など。憲法改正問題についてどのような立場をとる人にも一度は読んで欲しい本だと思う。

■田 中 雅 文（教育学科教授）

ジークムント・バウマン著 森田典正訳 『リキッド・モダニティ』 大月書店 2001年

西欧で生まれた「近代社会」のしくみは、私たちの生活を快適で便利なものにしてきた。しかし、それが過度に進んだ結果、自然環境の悪化や人々の連帯感の消失など、かえって私たちの社会の基盤を「むしばむ」傾向もみられるようになった。バウマンは、このような現代を集団の絆と相互依存の確固たる型が失われた時代ととらえ、「液状化した近代」という意味で「リキッド・モダニティ(liquid modernity)」と名づけている。そして、「範型と形式をつくる重い任務は個人の双肩にかかり、つくるのに失敗した場合も、責任は個人だけに帰せられる」(11頁)と述べるのである。私たちは消費社会のなかで自由を謳歌しているつもりで、実は伝統的な地域社会や社会集団に根付いていた「セーフティネット」の支えを失い、みんなで孤立と「自己責任」の罠に陥っているのではないか…。そんなことを再認識しながら、明日の社会のあり方を考えるきっかけにしてみたい。

■岡 本 安 晴（心理学科教授）

西田利貞著 『動物の「食」に学ぶ』 女子栄養大学出版部 2001年

本書は、サルの食べ物の解説書ですが、人に最も近い種の食べ物の解説を行いながら私たちの食事についてもいろいろと示唆を与えているものです。書籍一般についていえることですが、書かれていること全てをそのまま鵜呑みにすることは危険です。書かれていることを鵜呑みにせず批判的に読むためには、いろいろな本を読むなど幅広い情報源に接することも必要です。生物学者から見た食べ物について書かれている本書を読むことは、食事について振り返ってみるいい機会になります。

船本昇竜著 『コンピュータはどれほど賢いのか』 すばる舎 2003年

電子レンジを使うのと同じ感覚でコンピュータを使う時代ですので、それがプログラムで動いていることを忘れてしまうことがあります。普段あたりまえに使っているコンピュータなどがどのように動いているのか、本書のような解説書に目を通してみるのも面白いと思います。

青木生子・岩淵宏子編

『日本女子大学に学んだ文学者たち』の紹介

倉田（岩淵）宏子



本書は、2004年に本学の同窓会・社団法人日本女子大学教育文化振興桜楓会が設立百周年を迎えたことを記念して刊行したものである。日本女子大学創設の1901（明治34）年より今日に至るまでのおよそ100年間に、本学に学んだ多くの文学者たちのなかから、各時代・各ジャンルにおける先駆者となり、時代を切り拓く役割を担ってきた30人を取り上げ、同窓生30人がこれを論じた。

本書刊行の目的はふたつある。ひとつは、女子教育のパイオニアである本学の教育が、女性文学者の自己形成にどのように関わったかを検証すること。今ひとつは、女性が自己実現を果たすことの難しかった時代に、ジェンダー（文化的・社会的性差）の障壁を打破して確立した彼女たちの業績が、近現代文学史において、いかに質量ともに優れたものであったかを明らかにすることである。

対象文学者30人の内訳は次の通りである。作家では、田村俊子・木内錠・斎賀琴・宮本百合子・網野菊・尾崎翠・阿部光子・広津桃子・平岩弓枝・関容子・吉廣紀代子の11人。評論家は、平塚らいてう・神崎恒・高良とみ・板垣直子・増田れい子の5人。児童文学者は、石井桃子・いぬいとみこ・あまんきみこ・安房直子の4人。戯曲家・脚本家は、大村嘉代子・水木洋子・橋田壽賀子・大石静の4人。翻訳家は中村佐喜子1人。歌人としては、山川登美子・茅野雅子・生方たつゑ・長澤美津の4人で、俳人は細見綾子1人である。

本書を通読すると、男尊女卑の風潮が強く、ジェンダーの壁が厚かった近代日本社会のなかで、女子を「人間として」「婦人として」「国民として」教育するという本学の建学の精神に則った教育に触発・啓発されたことが、文学者としての自己形成に深く関わっていることが見て取れる。中退者の場合も、反発しつつも同様の側面が見られる。

他方、女子大という場を共有した女性文化圏が形成されていることにも気づく。国文学部1回生の田村嘉代子が帝劇時代を代表する劇作家となる背景には、同級生でフェミニズム文学の先駆者田村俊子との関わりが見逃せない。家政学部3回生の平塚らいてうは卒業後に、初の女だけの手による女のための文芸雑誌『青鞥』を創刊するが、創刊時の社員の6割強は、木内錠・斎賀琴・神崎恒など女子大同窓生であり、彼女たちは、日本の女性解放運動の原点となる『青鞥』運動の裾野を支えた。らいてうは当時、森田草平との「煤煙」事件により桜楓会から除名されたいわば札付きの不良と見なされていたにも拘らず、らいてうの呼びかけに多くの同窓生が応えたのは、ひとえに教育の力であろう。歌人の山川登美子と茅野雅子は女子大で邂逅し、与謝野晶子とともに詩歌集『恋衣』を発刊、『明星』の一時期を画した。宮本百合子の代表作『伸子』の校正は、ソビエト滞在中の百合子に頼まれた同級生網野菊の手に依った。このように学窓を基盤にした深い絆が、その後の文学活動を豊かに発展させているところに、女性文化のひとつの軌跡をみることができよう。

個々の論にも、研究上の数々の新見が見られる。例えば、従来、女子大を一学期で中退したといわれていた宮本百合子は、学籍簿上は三学期だった発見や、フロイトの心理学の影響を指摘されてきた尾崎翠が、在学中に松本亦太郎か桑田芳蔵から体系的に心理学を学んだ事実が新たに発掘されているように、研究面での収穫も大きいと自負している。

在学生の皆さんには、歴史に刻印された先輩たちの足跡を知っていただくと同時に、女の近代を切り拓いた文学に親しんでいただき、ご自分の将来を展望する糧にいただければと願っている。

（四六判・415頁・定価2625円・翰林書房刊・2004年11月22日発行）

（日本文学科教授）

展示「ニュージーランドの絵本と児童文学」

百々 佑利子

図書館玄関ホールにおいて、2005年1月6日（木）より6月30日（木）まで、展示「ニュージーランドの絵本と児童文学」を行っています。

ニュージーランドは、オーストラリアや近隣の南の国々とともに「オセアニア」と呼ばれる地域にあります。日本とは赤道をはさんで向かいがわの南半球にあります。北島と南島を併せた面積は日本の約7割、人口はわずか400万人強です。この事実は何を語るのでしょうか。

まず赤道に近い北部が温かく、南極に近い南部のほうは気温が低く、南北の感覚が日本とは異なります。人口密度が低く広大な自然に恵まれているため、海も野も山々も湖もとてもきれいに保たれています。環境保護政策では世界一を誇る先進国です。このようなことを、展示されている『オセアニア事典』で確認して頂ければ幸いです。

その他のユニークな点といえば、先住民マオリ人（東ポリネシア系）の言語を含めた文化に対して、近代国家を建設した移住者であるイギリス系の人々が敬意を払い、政治等の面でマオリ人をなおざりにしていないことでしょう。これはアメリカ他での被征服民族の扱われ方の歴史を考えるとすばらしいことだと思います。そのマオリ人は無文字民族ですが、ことばによるコミュニケーションを図ることを重視してきました。数々の部族伝説や歴史物語が人間のすぐれた記憶力と表現力を駆使して、何百年も語りつがれてきたのです。イギリス人が文字（英語）と印刷技術をもたらしてから、マオリ人がすぐに「書くこと」に才能を発揮したのも不思議ではありません。展示してあるケリ・ヒューム（マオリ人）の「ザ・ボーン・ピープル（骨に宿る力を信じる人々）」はイギリスの重要な文学賞であるブッカー・マッコネル賞を受賞しています。ヒュームは英語を用いながら、英語の単語をまるで生き物のように自在に動かして独自の英語表現をあみ出しました。そこにはマオリ文化の核ともいえる言語への愛着と執着が光っています。

ニュージーランドでは、誰もが一生に一冊は詩集を出版するといわれます。詩集を読んで語んじ、自らも詩をつくりまします。人間的な触れあいがやや希薄である国土ですが、山川草木、鳥や虫そして太陽や月や星と対話する機会、詩心を育む時間はたっぷりあります。キャサリン・マンスフィールドは、イギリスの作家といわれますが、実はニュージーランド生まれです。生国に暮らすのを厭ってイギリスに渡りましたが、舞台をニュージーランドに設定した作品が多くあります。

児童文学の世界でニュージーランド人は輝かしい足跡を残しています。マーガレット・マーヒーは多作であるばかりでなく、イギリスのカーネギー・メダルを何度も受賞した実力派です。彼女の最初の邦訳書は『魔法使いのチョコレート・ケーキ』で本学が誇る卒業生の石井桃子先生が訳されています。マーヒーも最初はニュージーランド的なモチーフを避けていましたが、次第にそのまなざしは足元に落ちてきました。日本でも何冊か紹介されている絵本作家のギャヴィン・ビショップはマオリ人とフランス人の血を引いています。彼も初めはグリム童話のイラストレーションを手がけたりしましたが、最近は力強さがみなぎるマオリの民話の絵本を製作しています。ニュージーランドではリンリー・ドッドの絵本に親しまずに育つ子はいないといわれます。音の美しさとリズム、ドッド自身の手になる軽やかな動物たちの絵が大人気です。それがこのたび本学講師のさとう・あやこ先生によって日本語の絵本になりました。ニュージーランドの子どもと日本の子どもが共有するものが増えました。

私は25年前にニュージーランドへ渡り、マオリの口頭伝承のフィールドワークを始めました。マオリの古老が、杖の刻み目をまさぐりながら記憶を呼びおこし、長い部族の歴史を朗々とうたいあげる様子に感動したのを覚えています。それから、ニュージーランドのどこででも出会う人々が、大人も子どもも本を通じて世界と相互に理解し合おうとすることにも感銘を受けました。人口がわずか400万という小国にしてはまことに豊かな文学の実りを世界にとどけつつけているのを、実感しました。多くのニュージーランド関係の本の一部にすぎませんが、展示されている本から南の島に浮かぶ詩の国、絵本の国を想像していただければ幸いです。

（児童学科教授）



展示用ポスター

<展示図書一覧>

書 名	著編者名	出版者	出版年
[Gavin Bishop] 6冊			
Mother Hubbard 他	Gavin Bishop	Oxford University Press	1986
[絵本] 4冊			
Matarawa cats 他	Rhondda Greig	Hodder And Stoughton	1984
[ニュージーランド人々が大好きな漫画] 10冊			
Footrot Flats 2 他	Murray Ball	Inprint	1977
[先住民族マオリ人の伝説や民話] 6冊			
Wonder tales of Maoriland 他	Alexander Wyclif Reed	A.H.&A.W.Reed	1964
[マーガレット・マーヒー] 10冊			
Leaf magic and five other favourites 他	Margaret Mahy	J.M.Dent & Sons	1984
[ニュージーランドの現代児童文学] 5冊			
The mangrove summer 他	Jack Lasenby	Oxford University Press	1988
[ニュージーランドの小学校の副読本] 2冊			
School journal part 4 number 2 他	School publications branch department of education		1978
[ニュージーランドの歴史] 3冊			
Standing in the sunshine 他	Sandra Coney	Viking	1993
[エベレスト初登頂 ヒラリー卿] 2冊			
Nothing venture , nothing win 他	Edmund Hillary	Hodder and Stoughton	1975
[ジョーク集]			
The Penguin book of New Zealand jokes	Collected by John Barnett and Lesley Kaiser	Penguin Books	1996
[マオリの女流文学]			
The bone people	Keri Hulme	Spiral	1985
[マオリ神話 部族伝説]			
Myth and legends of Maoriland	A.W.Reed	A.H.&A.W.Reed	1946
[キャサリン・マンスフィールド伝]			
The life of Katherine Mansfield	Antony Alpers	Oxford University Press	1982
[マオリ音楽]			
Traditional and modern music of the Maori	Barrow Terence	Seven Seas	1965
[ドロシー・バトラー自伝]			
There was a time	Dorothy Butler	Penguin Books	1999
[マオリ語]			
A dictionary of the Maori language	Herbert W.Williams	A.R.Shearer	1971
[マオリ生活]			
An illustrated encyclopedia of Maori life	A.W.Reed	A.H.&A.W.Reed	1963
[キャプテン・クック]			
A voyage round the world volume II	George Forster	University of Hawaii	1999
[マオリ渡来]			
The coming of the Maori	Te Rangi Hiroa , Peter H.buck	Whitcoullus	1950
[続 マーガレット・マーヒー] 4冊			
はらっぱにライオンがいるよ! 他	マーガレット・マーヒー 作 はしまよしこ 訳	偕成社	1991
[リンリー・ドッド] 4冊			
もしかもしゃマクレリーねことおっかけっこ	リンリー・ドッド 文 絵 さとう あやこ 訳	あづき	2004
魔法使いのチョコレート・ケーキ 他	マーガレット・マーヒー 作 石井 桃子 訳	福音館書店	1984
[百々 佑利子 著書と訳書] 7冊			
わたしのバーニーいつもいっしょ	ドロシー・バトラー 作 もも ゆりこ 訳	のら書店	1988
サンゴしょうのみつ	ジョイ・カウリー 作 百々 佑利子 訳	富山房	1986
オセアニアを知る事典	石川栄吉, 越智道雄, 小林泉, 百々佑利子 監修	平凡社	2000
現代ニュージーランド短編小説集	百々 佑利子, ジョン・ホブキンズ 監訳	評論社	1981
惑星Oの冒険	モーリス・ジョー 作 百々 佑利子 訳	岩波書店	1984
ニュージーランド史	キース・シンクレア 作 青木 公, 百々佑利子 訳	評論社	1982
キーウィと羊と南十字星	百々 佑利子 著 根本 進 画	あかね書房	1984
[マウイ民話] 2冊			
マウイ たいようをつかまえる 他	ピーター・ゴセージ 作 浜島 代志子 訳	MOE出版	1989

* 『魔法使いのチョコレート・ケーキ』（目白図書館所蔵）以外は、百々佑利子先生個人の蔵書をお借りして78冊展示しています。図書館玄関ホールには、78冊の図書リストのパンフレットもありますので、ご利用ください。

図書館ライフを楽しんで

矢島 由起

皆さんは、「図書館」というものにどのようなイメージを持っているでしょうか。大人数が利用しているのに館内は静寂にみち、受験生がひっそり勉強している場所。私にとっては静かな休憩所のようなイメージが図書館にはありました。

大学図書館も学生が黙々とレポートや文献に目を通して静かな場所ですが、他の図書館との一番の違いは専門的な書物が豊富にあることです。高校の図書館とは比べようもない蔵書の数、背表紙には難解そうな題名。それだけで気後れし、またどの本から読めばよいのかと目移りしてしまうかもしれません。特に大学1年次は、レポート作成のための本を読むのに精一杯で、他分野の本に手を広げていくのは難しい時期かもしれません。私の場合、2年次に他学科に転科したということもあり、大学の2年間は講義で指定された図書以外あまり読めなかったように思います。

そのような折、西生田図書館で書架整備のアルバイトをさせていただけることになったのは、私にとって大きな転機になったと思います。返却された本を棚に戻し、請求番号順に並べていると自然と背表紙の題名に目がいき、興味がわいてきました。そこで、自分がいかに限られた本棚しか見ていなかったか、狭い範囲の本しか読んでこなかったのか、その結果自分の視野が狭まっていることに気づきました。自分のレポートに関係なく様々な種類の本に出会い触れられたことは、私にとって本との新しい出会いになったと思います。

自分の興味の方向性を広め、固めていくのに4年間はあっという間かも知れませんが。図書館は利用すればするほど居心地がよくなり、難問にぶつかったときの手助けにもなってくれるでしょう。自分の知らない世界を覗ける静かでエキサイティングな場所である大学図書館。ぜひフル活用してみてください。
(人間社会研究科・1年次院生)

図書館の快適空間

与曾井 量子

私が図書館でのアルバイトを始めてから、もうすぐ一年が過ぎようとしています。元々「図書館」という場所が好きだったことと、学内で授業の合間にできる、というのが魅力で始めたことなのですが、今ではやっていて本当によかったと思っています。

図書館とは、その名の通り「図書や資料などを整理・保管する施設」なのですが、それに加えて「閲覧」という重要な役割をも担っています。私が大学に入学し、初めて大学図書館を利用した際に抱いた感想もそのことについてでした。学部専門書や持ち出し禁止の資料がずらりと並ぶ書架の横の机で、黙々と書き物をする学生の姿を見ながら「ああ、これが大学の図書館なんだなあ。」と妙に感心してしまったことを思い出します。そんな中で、広い空間に大きな机が配置されたいわゆる「閲覧スペース」とは別に、一人用の個人机というのは、何か集中して物事に取り組みたい時にとても重宝する存在です。そういった場所が優先的に確保されているのは、利用者のほとんどが学生である大学図書館ならではの特征かもしれません。広いスペースで数人と課題に取り組むもよし、個人机で集中して読書するもよし、様々な利用法に適した空間が、図書館の至る所には設けられています。自分にとって落ち着ける場所を見つけることは、大学図書館を賢く快適に使う上で、大切なポイントの一つになるのではないのでしょうか。

アルバイトや、もちろん個人的にもよく使う図書館ですが、まだまだ使い切れていない所がたくさんあるように思います。膨大な数の蔵書の中で、在学中にどれだけの本に触れることができるのかは分かりませんが、これからも図書館はお気に入りの場所の一つとして、自分なりに大いに活用していきたいと思っています。
(日本文学科・2年次学生)

図書館コード — 図書館でのやくそくごと —

※"code"には、よく知られた「符号」「暗号」の意味の他に
「礼儀作法」「規範」の意味があります。

1. 大学図書館は専門図書館です

地域住民の趣味・娯楽や教養のためといった文化的支援を主な目的とした公共図書館とは異なり、大学図書館は、そこで学ぶ、あるいは研究をする学生や教員のために、図書や雑誌といった資料を中心に、知識や情報を提供しています。大学図書館では研究領域に特化した主題についての資料を専門的に取り扱います。

2. 大学図書館はコピーセンターではありません

大学図書館の活動基盤となる法制度の一つに著作権法があります。利用者それぞれが必要とする資料を、必要な冊数すべて図書館でそろえておくことは不可能です。そのため大学図書館では資料の複写が認められています。ただし、大学図書館で資料の複写をすることは、著作権法の上では「特例」とされています。資料の半分を超えない量で一部だけ複写することが許されているのです。

3. 大学図書館は在学生と教員のものです

大学図書館は、対象とする学問領域に従事する学生や研究者に利用してもらうためにあります。大学図書館にある資料は、学生あるいは教員が優先して利用するために集められています。

4. 大学図書館にある資料は大学の一部です

大学図書館にある資料は、大学の財産です。それぞれの学問領域に合わせた資料の内容も、手に取る一冊一冊も、学校の一部分なのです。線を引いたり書き込みをすることは、校舎の壁に落書きすることと同じです。貸出した図書を、飲み物や食べ物で汚すことも、学校を汚すことと同じです。

5. 大学図書館は公共の場であり自分の家ではありません

大学図書館の利用者が、学生や教職員に限定されていますが、多数の人が出入りする場所です。貴重品の管理は利用者がそれぞれでしなければなりませんし、騒いだり大きな音を立てることは他の利用者の迷惑になりますので慎んでください。

6. 大学図書館は利用されるためにあります

大学図書館では古い本も新しい本も、似たような内容が集まるように並べられています。利用者が必要とする内容を探してさまようことがないような工夫なのです。

7. 大学図書館では利用者の情報は秘密にされています

図書館では、利用者の登録情報や何を貸出しているかといった利用者に関する情報を管理していますが、本人以外に提供することは一切ありません。個人情報の保護は図書館員の使命でもあります。

8. 大学図書館を上手につかいましょう

大学図書館を上手に利用してもらうためにいろいろ用意をしています。

(1) 各種利用案内パンフレット

図書館のしおり（目白）	図書館のしおり（西生田）
日本女子大学図書館利用案内一目白一 貸出と西生田相互利用	日本女子大学西生田図書館利用案内 1 貸出・施設・目白図書館の利用
〃 図書の探し方	〃 2-1 図書の探し方 2-2 図書のさがし方
〃 逐次刊行物と館内各施設	〃 3 逐次刊行物とA Vコーナー
〃 レファレンス・サービス（参考係）	〃 4 参考係（レファレンス・サービス）

(2) 図書館ホームページからの案内とe-learning（オンライン利用者ガイド）

左から、図書館の利用案内、開館日程、オンライン蔵書検索、オンラインデータベースなど、図書館関係リンク集、本学へのリンクです。また、e-learningでは、インターネット環境があれば居ながらにして資料検索のやり方を身につけることができます。



(3) 図書館員による案内

図書館で直接図書館員にお問い合わせ下さい。利用に関すること、資料に関すること、何でもお受けします。
(館員・閲覧係 鈴木 学)

卒業生の図書館利用について

卒業予定の学生の皆さん、卒業後も図書館を利用できることをご存知でしょうか。平成17年4月以降に図書館のカウンターで、卒業生としての登録をすれば、新たな図書館利用カードを発行します。図書の貸出もできますので、どうぞご利用ください。

旧教職員の図書館利用について

専任の教職員の方は、退職された後も図書館を利用することができます。その際は図書館のカウンターで、旧教職員としての登録をしてください。

非常勤の教職員の方は、在職中は図書館を利用できますが、退職後はできなくなります。利用をご希望の場合は、図書館友の会会員の登録をして利用されるようにおすすめします。

◎訂正◎ 前号（第121号）11ページ「統計で見る図書館サービスの歩み」の記事中、誤りがありましたので訂正します。 表5：相互協力件数の推移 平成15年度西生田図書館・文献複写・依頼件数の数値 560（誤）→860（正）

編集後記 目白の図書館玄関ホールでは、児童学科百々佑利子先生企画の展示「ニュージーランドの絵本と児童文学」を行っています。新入生の皆さん、利用カード発行などで図書館にいらした折には、玄関ホールにも一度立ち寄ってみてくださいね。巻頭のカットは、目白図書館で学生アルバイトをしている井原理江さん（数物科学科2年次）が描いてくださいました。若い蛙さん、"花より団子"の年頃なのでしょうか。（田口）

日本女子大学図書館だより No.122 2005.3.15 図書館ホームページ <http://www.lib.jwu.ac.jp>

日本女子大学図書館発行 〒112-8681 東京都文京区目白台2丁目8番1号 ☎ (03) 5981-3195